平城宮跡資料館ミニ展示

発掘速報展平城2014

第1期 2014年12月6日〔土〕～2015年2月1日〔日〕

第2期 2015年2月14日〔土〕～2015年3月31日〔火〕

興福寺西室（平城第516次）

調査期間　　2013年6月3日－10月11日

第516次調査区全景（北から）

調査の概要

興福寺は、藤原鎌足の遺志により、夫人の鏡女王が山背国山階（現京都市山科）に建てた山階寺に始まります。和銅3年（710）の平城遷都の際、藤原不比等により現在の地に建立されて以来、藤原氏の氏寺として栄えました。

西室とは、興福寺の西僧房（僧房は僧侶が生活する建物）のことで、中金堂と講堂の西側に位置していました。建立年代は中金堂院の他の建築と同じ720年代と考えられています。建立以降8度火災に遭い、最後の焼失は享保2年（1717）とされ、以後再建されませんでした。

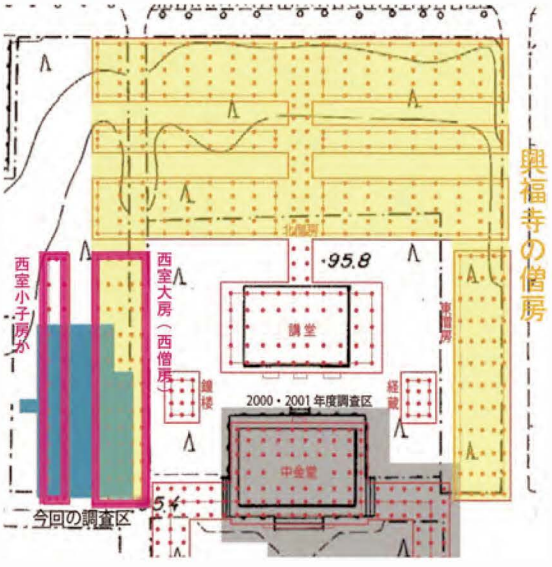
今回の調査は、興福寺境内整備基本構想に基づくもので、西室に対する初めての本格的な調査です。主な調査範囲は西室の南半分で、調査面積は約985㎡です。

調査の成果

西室のうち大房（梁行の大きな僧房）について、礎石や礎石の据付穴、基壇外装や雨落溝の一部などを検出しました。調査範囲は建物の南側7間分ですが、全体規模は、桁行10間・梁行4間で、南北212尺（62.54m）、東西40尺（11.8m）と復元されます。これは、『興福寺流記』などの諸史料に記述される建物規模とは異なります。また、礎石のうち8個は創建当初から動いた形跡がなく、度重なる再建を経ても建物の位置と規模は変わっていないことがわかりました。

西室大房の西隣では、古代にさかのぼる掘立柱建物を確認しました。桁行方向の柱割りが大房と揃い、小子房（梁行の小さな僧房）の可能性もありますが、絵画資料の表現と様子が異なるなど、課題も多く残されています。

2014年度には、西室北端の調査をおこなっており、本調査で残された課題については、今後も引き続き検討を重ねていきます。



興福寺の僧房と今回の調査区

出土遺物

土器は、鎌倉時代から室町時代にかけての土師器皿が大量に出土しました。瓦は、奈良時代から江戸時代まで各時期のものが出土しましたが、中世のものを中心とします。この他、暗渠（地下に設けられた水路）に用いられた土管が多数出土したことが注目されます。西室大房の廃絶後に何らかの金属生産活動が行われていたことを示す、冶金に関する遺物もみつかりました。

薬師寺十字廊（平城第519次）

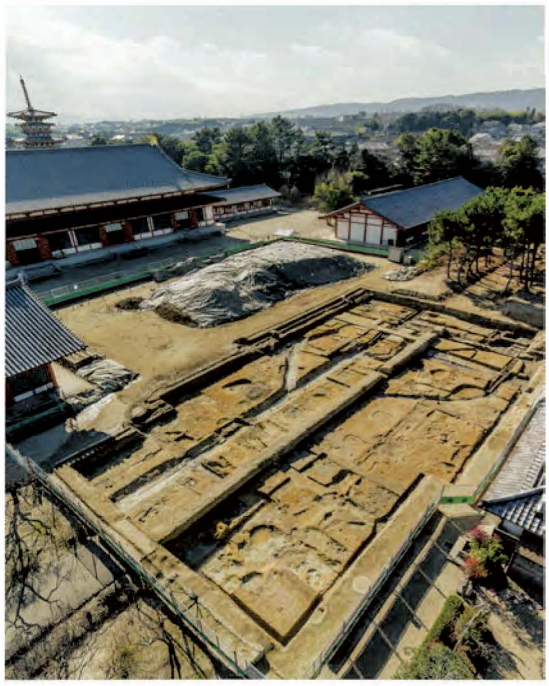
調査期間　2013年9月17日－2014年2月28日

調査の概要

薬師寺は、天武天皇9年（680）に天皇が皇后・鵜野讃良皇女（のちの持統天皇）の病気平癒を祈願して発願した寺院です。和銅3年（710）の平城遷都にともない、藤原京の薬師寺（現在の本薬師寺）から現在の地に移転されました。

十字廊は、奈良時代後半の建立とされ、長和4年（1015）に書かれた『薬師寺縁起』によれば、食殿とも呼ばれていました。この別称からは、南側に隣接する食堂（僧が食事をとる建物）に関連する機能を持っていた可能性が考えられます。

今回の調査は、薬師寺旧境内保存整備計画の一環としておこなったもので、十字廊の容を解明することを目的としています。主な調査範囲は、十字廊の東半分で、調査　積は約872㎡です。



第519次調査区全景（北東から）

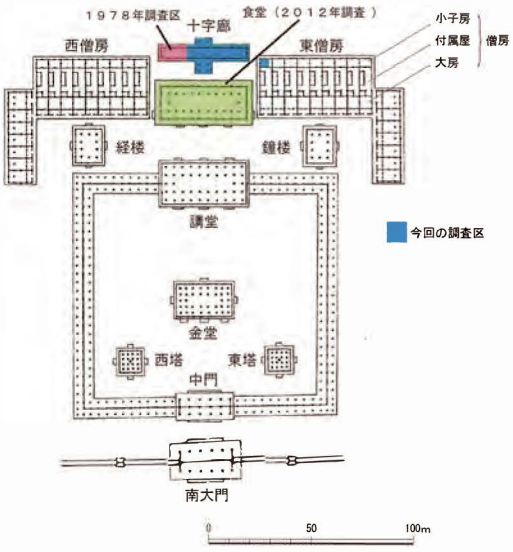
調査の成果

十字廊の柱の礎石の据付痕跡を、東西廊の桁行7間分、南北廊の桁行4間分、検出しました。過去の西半分の調査成果と合わせると、東西廊は桁行11間・梁行1間、南北廊は桁行4間以上・梁行1間で、東西141尺（約42m）、南北49尺（約15m）以上の建物と推定されます。これは『薬師寺縁起』に記された規模（東西14丈1尺・南北5丈6尺）に近いと言えます。

十字廊は天禄4年（973）に火災によって焼失し、寛弘2年（1005）に再建されたことが記録に残されています。発掘調査では、十字廊の遺構に明確な建て替えの痕跡を確認できませんでしたが、基壇を壊す土坑から10世紀後半から11世紀代の土器が出土し、再建年代や廃絶年代を考える手がかりを得ました。

この他、十字廊の北側では、参道と推定される石敷と、その北方に位置する礎石建物が確認されました。十字廊の東側で確認された遺構も含め、これらの建物の配置には高い計画性がうかがわれます。

今回の調査では、薬師寺内部の施設配置だけでなく、　国的にもほとんど明らかにされていない古代寺院の食堂背後の空間利用について迫ることができました。



創建期の伽藍配置図と今回の調査区

出土遺物

薬師寺創建期の軒瓦や、鬼瓦、隅木蓋瓦などの奈良時代の瓦が数多く出土しました。一方、土器は奈良時代のものは少量で、10世紀後半から11世紀代のものが土坑からまとまって出土しています。この他に注目される出土遺物としては、雲文風の文様で飾られた古代の圏足円　硯、銅製の螺髪などがあります。

興福寺西室出土　土師器皿（直径約８～16cm）

薬師寺十字廊出土　圏足円面硯（高さ６cm）

薬師寺十字廊出土　螺髪（高さ 7.8mm）

興福寺西室出土　土管（玉縁式、１本の長さ約 30cm）

平城宮跡資料館平成 26 年度ミニ展示

『発掘速報展 平城２０１４』

この展示は、奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）が 2013 年度におこなった発掘調査の成果の一部を紹介するものです。詳細は『奈良文化財研究所紀要 2014』をご参照ください。

発行日	2015 年 2 月 14 日
発行	独立行政法人　国立文化財機構 奈良文化財研究所 〒 630-8577　奈良市佐紀町 247-1（仮設庁舎） http://www.nabunken.go.jp/
企画編集	奈良文化財研究所企画調整部　展示企画室
表紙デザイン	市原　夕貴
印刷	株式会社 天理時報社